

人 が 元 気 ！

自 然 が 元 気 ！

地 域 が 元 気 ！

黒潮町勢要覧

発行日 2009 年 3 月

発行者 黒潮町

〒789-1992 高知県幡多郡黒潮町入野 2019-1

TEL : 0880-43-2111 (代) FAX : 0880-43-2788

E-mail : somu@town.kuroshio.lg.jp

黒潮町公式ホームページ <http://www.town.kuroshio.lg.jp/>

K U R O S H I O T O W N



黒潮町勢要覧

2009





海のくらしと山のくらしが出会う町

c o n t e n t s

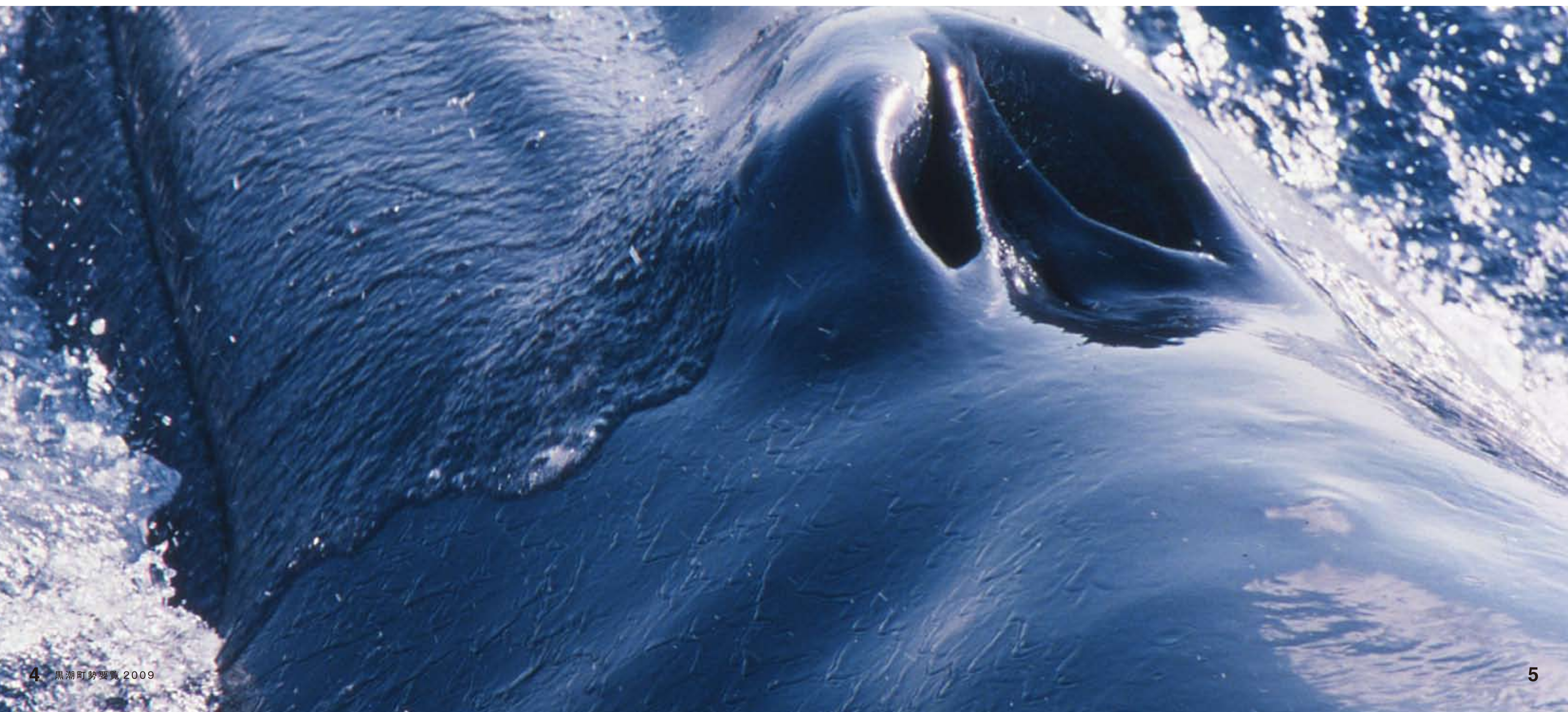
黒潮町勢要覧 2009

海に棲む	p4
農村に暮らす	p6
黒潮町のまちづくり	p8
砂浜美術館	p10
黒潮一番地	p12
安心・安全、黒潮印の商品群	p14
人が元気！自然が元気！地域が元気！	p16
産業・交流	p22
健康・福祉	p24
教育・文化	p26
自然・環境	p28
参画・協働	p30
伝え受け継ぐ、先人の鼓動	p32
町の概要	p34
ガイドマップ	p35
黒潮町のあゆみ	p36



海に棲む

黒潮町は、南西部に太平洋を望む風光明媚な町です。なだらかな丘陵が海へとつながり、遠浅の波穏やかな海域をなしています。沖合の青い大海原に出ると、暖かくて比較的浅い海域を好むニタリクジラやイルカに出会うことができます。自然とともに生き、海を生業とする文化がここにあります。





農村に暮らす

草むらの緑は今日もいきいきとしています。目にも鮮やかなその姿は、私達に元気をくれます。食べること、暮らすこと、そして生きること…すべてにおいて、太陽と豊かな自然に感謝する日々がここにはあります。すぐそばにある自然を守り、その恩恵を受けながらともに生きていくこと、それが私たちの志です。





黒潮町の まちづくり

●まちづくりのビジョン

人が元気、自然が元気、地域が元気な黒潮町

建物がなくても、長さ四キロメートルの砂浜、目の前に広がる太平洋、背後に続く松原など、地域住民が大切にしてきた自然そのままを、頭の中で美術館にすることで新しい価値観を創造するという考え方は、黒潮町で生まれた「千年に耐えられるコンセプト」とも評されています。この考え方は、人と自然のつきあい方を求めてきた二十年間の取り組みの中で、「まちづくりの理念」として定着してきています。

また、地域産業の歴史から創設された「黒潮一番地」とカッオ文化を伝承する活動は、黒潮町の地域個性を飛躍的に高めてきました。

今、黒潮町のまちづくりにとって大切なことは、これまで二つの町で育まれてきた、まちづくりに関する理念や地域個性のエキスを再構築するとともに、「人が元気、自然が元気、地域が元気な黒潮町」の将来像を描きながら、住民と行政が協働して、暮らしやすく、豊かさと賑わいのある「ふるさと黒潮町」を築き上げることです。

そのためには、住民一人ひとりが主人公となり、地域にある「人・自然・歴史・産業・文化」などの多様な魅力をさらに活かし、生活を高めるとともに、それぞれの自己実現をめざして今一歩踏み出す必要があります。





砂浜の模様



クジラ



砂浜で遊ぶ子どもたち



入野松原



砂浜美術館
私たちの町には美術館がありません。
美しい砂浜が美術館です。

「私たちの町には美術館がありません。
美しい砂浜が美術館です。」をまちづくりの基本理念とし、沖合いに住むクジラを砂浜美術館長に見立て、さまざまなイベントを開催しています。



Tシャツアート展

「写真・絵画展は室内でするもの」という考え方を無視した、世界ではじめての美術展。美しい入野の浜に、ひらひらとたくさんのTシャツがはためきます。毎年5月のGW期間中に開催。



小鳥の足跡

ものの見方を変えると、いろんな発想がわいてくる。

4 kmの砂浜を頭の中で「美術館」にすることで新しい創造力がわいてくる。

砂浜が美術館だとすると・・・

「美しい松原」が作品です。

沖にみえる「クジラ」が作品です。

砂浜に咲く「ラッキョウ」が作品です。

卵を産みにくる「ウミガメ」が作品です。

砂浜を裸足で走る「子どもたち」が作品です。

流れ着く「漂流物」が作品です。

波と風がデザインする「模様」が作品です。

砂浜に残った「小鳥の足跡」が作品です。

漂流物展

海に流れついたものを「作品」と捉えた展覧会。世界中から流れ着いた「作品」からは、さまざまなメッセージが伝わってきます。



潮風のキルト展

毎年11月上旬に開催される、パッチワーク作品の展覧会です。



シーサイドはだしマラソン全国大会
毎年GW期間中に開催される、長さ4kmにも及ぶ入野の砂浜をはだして走るマラソン大会です。



カツオの入札



カツオふれあいセンター 黒潮一番館

カツオ一本釣りのまちならではのカツオのタタキが
味わえる他、カツオのタタキ作り体験もできます。
高知県幡多郡黒潮町佐賀374-9
TEL/FAX：0880-55-3680



黒潮一番地

一本釣りとカツオの町
カツオ食うなら黒潮町！

黒潮町は、高知県一のカツオ漁の基地。
漁獲高日本一を誇る「カツオ一本釣り船
団」を有し、地域産業の歴史から創設さ
れた「黒潮一番地」とカツオ文化を伝承
する活動は、黒潮町の個性です。



佐賀明神丸



カツオ丼



カツオのタタキ作り体験



カツオの薫焼き



カツオの一本釣り

さ



し



す



せ



そ



計 画

「黒潮印」の商品開発 さしすせそ計画

「さ・し・す・せ・そ」は和食の基本で、「さとう・しお・す・しょうゆ・みそ」のこと。黒潮町は自然環境の中に、この全てを持っています。安全で質の高い基本調味料と組み合わせた地域資源の高付加価値化を図り、町内の製造業・卸売業・直販店・宿泊業などの連携事業を展開しながら、それぞれの分野での活性化を図っていきます。

「さとう・しお・す・しょうゆ・みそ」だけでなく、「安全・クオリティ・オーガニック・ベーシック」などのキーワードをもとに、「黒潮印」の製品を生産するプロジェクトを推進します。



黒砂糖

純度100%の黒砂糖。完全手作りのやわらかい甘味です。
■大方精糖生産組合



天日塩

まろやかさとミネラルが豊富な天日塩。その一粒に黒潮町の自然がまるごと詰まっています。



ノンオイル 塩ドレッシング

塩にこだわったヘルシーなノンオイルドレッシング。高知産ゆずの酸味と塩味のバランスが良く、生野菜サラダや白身魚のカルパッチョ用のソースに最適です。



黒潮町の天日塩を素材に使い、多少割高でも安全・安心で素材の味が引き出された本物の加工品を作りたい。地方の伝統食品の復活と継承、これからの日本の良い加工品づくりの先駆けを目指します。



塩だれ

にんにく・ゴマ・香辛料などをブレンドして本格的な塩だれをつくりました。焼肉や焼きそばなど、油の多い料理もさっぱりと食べられます。



鯉塩辛

鯉の一本釣り漁師が自家用に作っていた秘伝の塩辛を再現。材料は天日干し塩と黒潮町産鯉の内臓だけ(無添加)。つつい酒がすすみます。



天日塩みそ

天日干し塩と四万十町産大豆・米を100%使用(無添加)。まろやかな味で、おみそ汁はもちろん、生野菜につけたり、いろいろな料理にお使いください。



きびなごフィレ

天日干し塩と宿毛産きびなご、エキストラバージンオイルを使った、塩漬きびなごのオイル漬け(無添加)。使い方はアンチョビと一緒に。パスタやピザ、サラダなどに。

素材にこだわる
安心・安全、黒潮印の商品群。



人が元気!
自然が元気!
地域が元気!



つくる人が 元気です。

南国特有の温暖な気候のもと、黒潮町の海里山では、良質で豊富な農産物が育っています。

黒潮町は全国有数のラッキョウの産地でもあり、入野松原の砂地には、ラッキョウ畑が一面に広がっています。栽培が始まったのは1960年で、現在では県内の生産高の7割近くをシェアしています。また、サトウキビの栽培も県内では最も多く、52戸の農家が約210aの畑で栽培しています。

また、カツオの水揚げ高は県下一を誇り、日本一の漁獲高を誇る「カツオ一本釣り船団」も有しています。黒潮町は、つくって育てる「人」が元気です。





一次産業が 元気です。

人が元気な黒潮町では、農水産物もこんなにイキイキとしています。

大方地域では施設園芸や花卉の栽培、佐賀地域ではカツオの一本釣りやシメジやエリンギなどの菌茸類栽培が盛んです。

また、20年以上前から、従来の加熱製法を用いず、全工程を太陽熱と風力のみで自然結晶させた天日塩づくりが行われています。ウマミがあり、まろやかな塩は、ミネラルが豊富で、本物志向を求める人に利用されています。





緑と青に 囲まれた町

黒潮町は、漁村と農村が隣り合わせの町です。木々の「緑」と海の「青」のコントラストが私たちの目を楽しませてくれます。

また、年間を通して「ホエールウォッチング」や「カツオのぼり」などイベントも盛りだくさんです。黒潮一番館で実施される「カツオのタタキづくり体験」では、昔ながらの作り方を通して、黒潮に育まれ伝えられてきた漁師文化を体験することができます。



1 産業・交流

活力ある産業と交流のまちづくり

豊かな海や田畑を活かし、基盤整備を進めるとともに、希少価値の高い産物や加工技術の開発などにより、黒潮ブランドの高付加価値型の農林水産業への再構築に向けて、地産地消の展開や道の駅などを活用した積極的な顧客開拓に努め、企画・開発力に優れた、活力ある産業のまちづくりを目指します。

また、人・物・情報の交流による活性化と地域資源活用による産業の振興により、バランスのとれた産業の形成を目指します。



海を活かす

日本一の漁獲高を誇る「カツオ一本釣り船団」を有し、高知県内漁獲高の53.8パーセント（平成18年高知県農林水産統計）のカツオが水揚げされる本町は、一本釣りカツオ漁の町です。一本一本のカツオを、竿で釣り上げる一本釣り漁は、カツオの高品質を保つばかりではなく、資源を枯渇させない自然にやさしい漁法でもあります。「日もどりカツオ」などのあまり知られていない漁師町の味を広め、「カツオ食うなら黒潮町！」という地域そのものをブランド化するプロジェクトを推進します。



里を活かす

年間平均気温が16～17度の黒潮町では、大方地域では、施設園芸、花卉栽培、葉タバコ、ラッキョウ、露地野菜及び水稻といった複合的農業、佐賀地域では、施設野菜、菌茸類及び水稻を中心にした農業が営まれています。環境にやさしい農業の実践により、安全で消費者の信頼を確保した施設野菜・花卉・菌茸栽培などの安定的供給を図るとともに、黒砂糖や天日塩を使った農産物加工品による地域資源の高付加価値化を目指します。



山を活かす

本町の林野面積は14,711ヘクタールで、町全体面積の78パーセントを占めています。人工林面積は8,545ヘクタールで、このうちの多くを占める「幡多ヒノキ」は、薄紅色の木肌と色艶の良さで知られる銘木です。将来予想される国産材時代を見据えるとともに、複層林により循環する持続的な森林の整備を行っていきます。近年、森林は経済的な価値のみにとどまらず、水源涵養や緑の保全などの公益的な機能、住民の憩いの場としても重要視されてきています。自然と親しめ、「みんなが参加する森づくり」を目指します。



人の交流を活かす

入野松原周辺の自然をそのまま美術館と考えた「砂浜美術館」や「黒潮一番館」を拠点として、海・山・里で様々な体験ができ、人と自然がうまく付き合う交流のまちづくりを目指します。



2 健康・福祉

思いやりのある健康・医療・福祉のまちづくり

今後、さらに進む少子・高齢化社会に対応して、安心して子どもを生み、育て、健やかに成長するための子育て環境の拡充を図るとともに、保健・医療・福祉などの充実とネットワーク化を進めることで、住民が支えあうことのできる福祉社会の形成を目指します。



保健・医療の充実

保健・医療・福祉を一元化した総合的な施策で効率的な行政サービスを提供し、医療制度改革における体制の整備や人材の確保を図ります。地域に密着した診療所や地域資源の活用を図り、あらゆる年齢階層に応じた健康づくり事業を総合的に推進します。



次世代育成・子育て支援対策の充実

次代を担う子どもたちが健やかに育ち、夢と希望を持って成長でき、親や家庭や地域が子育てを楽しむ町を目指します。



地域福祉の充実

黒潮町保健福祉センターや黒潮町総合センターを拠点とし、人に優しい福祉のまちづくりを推進します。介護を要する状態になっても、できる限り住み慣れた地域や家庭で自立した生活が継続できる在宅福祉サービスの充実を図ります。



高齢者福祉の充実

地域包括支援センターを拠点として、保健師、社会福祉士及び主任介護支援専門員などがチームアプローチによる業務の推進を図ります。また、高齢者にとっては、自らの経験と知識を活かして地域社会の中で役立てることは、張りのある生活を送る上でも大切なことです。高齢者の知識と技術を最大限に活用できる環境の整備を推進します。



障がい者福祉の充実

障がいのある人に、適切な保健・医療サービスを提供するため、保健、医療及び福祉の連携がとれたサービスの提供体制の整備を図ります。



3 教育・文化

誇りのもてる教育・文化のまちづくり

次代を担う子どもたちの豊かな心と創造性を育むため、学校教育の充実を図るとともに、多様化する住民のニーズに応じた学習活動や、自己研鑽が身近に図れる機会を提供する生涯学習体制の確立を推進します。

また、本町には、多くの伝統文化や文化財などが存在しており、今後ともこれらの保護及び継承を進め、個性豊かで文化の薫り高いまちづくりを目指します。



学校教育

学校の主人公は子どもたち、小・中学校 9 年間で基礎・基本の定着と学力の向上を大切に考え、自己学習能力の育成を図るとともに、生活体験、自然体験及びボランティアなどの社会体験活動を通じて、生きる力や豊かな人間性の育成を図ります。



高校・大学・地域連携教育

高知県立大方高等学校を、黒潮町の「知」のネットワークの拠点と位置付け、学校、地域、行政及び企業が連携した取り組みを実施します。その中で、生徒は力量を高め、地域や企業は元気になるという、利益の双方向性をめざした大方高校版デュアル・システムを目指します。



生涯学習

大方あかつき館及び黒潮町総合センターを生涯学習活動の拠点と位置づけ、時代の進展に即応した生涯学習プログラムを確立し、学んだことが地域で活かせる環境を創造します。



4 自然・環境

自然環境と調和のとれたまちづくり

本町は、黒潮寄せる海岸や、山・川の豊かな自然とその景観を有しています。この美しく豊かな自然を保全するとともに、その恵みを享受し、共有できるまちづくりを目指します。

また、自然環境と調和がとれ、あらゆる世代が安心して質の高い暮らしを実現するため、より良い生活環境の充実に努め、住みやすさを実感でき、訪れる人が住みたくくなるようなまちづくりを目指します。



入野松原

太平洋に面し、幅約 200m、延長 4km にわたり、数万本のクロマツ林を形成している入野松原は、黒潮町のシンボルです。この松原は天正年間（1573～92）に長宗我部元親の家臣、谷忠兵衛忠澄が中村城代であった頃、囚人の使役によって植栽し、また、宝永 4 年（1707）の大津波後の復旧策として各戸からクロマツを 6 本ずつ植えさせ防潮に備えたものといわれています。



入野浜（月見が浜）

入野松原前の入野浜は、古来「月見が浜」と呼ばれ四季観月の勝地とされてきました。「土佐物語」によると、四国を平定した長宗我部元親が幡多巡回の帰途に入野の浜を遊覧して「誠に無双の景地かな。心あらん人に見せばやといいし。難波あたりにも劣るまじけれども、あまさかる鄙なれば知る人もなく名所の数に入らず…」と残念がったと言われています。



伊与木川

本町には 11 の二級水系が存在します。その中でも、佐賀地域の伊与木川、大方地域の伊田川、有井川、蜷川、湊川、加持川、蛸瀬川水系は、古来地域住民の生活に大きな影響を与えてきました。美しい田舎景色が残された伊与木川流域では、その景観を守るため「黒潮町伊与木川清流保全条例」が制定されており、流域の水源涵養林や近自然河川工法などを採用した整備を推進していきます。



5 参画・協働

ふれあい豊かでみんなが主役のまちづくり

住民一人ひとりが、まちづくりの主役として生き生きと暮らすことのできるまちづくりを推進するため、積極的な行政情報の公開、住民の地域におけるまちづくりへの参画機会の充実を図り、住民と行政が協働した地域づくり・まちづくりに取り組みます。



地域コミュニティの充実

急速に進む少子・高齢化に伴い、中山間地域の集落人口は激減をしています。これらの集落には、経済的發展に結びつく産業は少ないが、地域ごとの文化や歴史があります。特に高齢者には、計り知れない知恵や技が残されていますが、その多くは埋もれたままです。これらの地域の歴史や文化、人々の知恵や技を顕在化させ、資源として活用して集落の活性化を図ります。



住民参加の推進

本来のまちづくりは、住民が日常生活の中で主体的に行ってきたことであり、相互扶助の中で培われてきたものでしたが、行政が住民の要望をできる限り汲み取ってきた結果、行政における業務の肥大化と財政の増大・硬直化が進行してきました。これからは、「まちづくりの主体は住民である」という住民自治の原点に立ち返り、行政と住民の役割を明確にしながら、住民一人ひとりが、自ら考え行動するまちづくりを進めなければなりません。そのために、行政と住民の新しいパートナーシップを確立し、住民との協働による公共サービスの提供をめざします。



人権文化のまちづくり推進

「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ尊厳と権利について平等である」という世界人権宣言の理念は、人類普遍の原理であり、日本国憲法においても法の下での平等及び基本的人権の保障について定められています。しかし、現実には同和問題をはじめ、女性、子ども、高齢者、障がい者、HIV感染者、外国人等に対する人権侵害の問題が依然として存在しています。あらゆる人権課題の解決をめざし「黒潮町人権施策基本方針」を定め取り組んでいきます。





鹿島神社大祭

佐賀の港はカツオ漁の盛んなところ。港近くの鹿島神社では、初ガツオシーズン前の毎年3月3日に神輿戻しや鼓踊りが奉納されます。なかでも、5～10歳の少年たちが、華やかな衣装に身を包み、胸に太鼓、手にウチワといういで立ちで踊り続ける鼓踊りは、見る人を楽しませてくれます。鹿島ヶ浦では、豊漁祈願の勇壮な漁船パレードが続き、多くの人で賑わいます。



土佐は古くから遠流の地として幾多の配流者を迎えてきました。黒潮町へも藤原師長・尊良親王・土御門上皇を迎えたと伝えられています。鎌倉時代末期には、後醍醐天皇の第一皇子尊良親王が二年近くに渡りこの地で過ごされました。その後、越前金ヶ崎で新田義貞とともに散った悲劇の親王に由来する史跡・伝説・地名は今でも多く残っています。中でも、親王を追って土佐へ船出した王妃とのロマンを秘めた悲しい小袖貝の伝説は、入野の砂浜の風景とともに今でも人々に語り継がれています。

また、この地では「ハコネ用水」などの著述と農民運動で活躍したタカクラ・テル、最後の私小説家と言われた上林暁、日本画の大家山本倉丘、反差別国際運動に生涯をかけた村越末男など多くの文化人を生んできました。

先人の鼓動を受け継ぐ、



紀貫之の松山寺「月」字の額

伊田松山寺（現観音寺）には、紀貫之の書と伝えられる「月」字の額というものが残されています。南路志をはじめ多くの物にするされて世に広まり、文人墨客の題材の対象ともなっていて、松山寺といえど必ず「月」字の額がつきものであり、1808（文化5年）には、伊能忠敬もここを訪れ「月」字の額を見たことが「伊能忠敬測量日記」に記されています。



小袖貝の伝説レリーフ



タカクラ・テル文学碑

大方あかつき館

郷土出身の私小説家「上林暁」を顕彰し、その作品や資料を展示した文学館・図書館機能を備えた施設で、黒潮町の生涯学習の拠点施設となっています。「梢に咲いてゐる花よりも、地に散ってゐる花を美しいと思ふ」

入野松原の中にある、上林暁文学碑はノーベル文学賞作家川端康成の染筆によります。刻まれたこの言葉は、上林文学の真髓をうまく表すとともに、町民の精神的思考に大きな影響を与えてきました。



上林暁文学碑



上林暁生家

黒潮町の概要

位置・地理

黒潮町は高知県の西部、幡多地区の東部に位置し、東を四万十町、西を四万十市に接し、高知市から約100 km、太平洋に向かって長く広がる地形を成し、東西約 18.42 km南北約 23.57 kmで南西部に太平洋(土佐湾)を望む風光明媚な町です。海岸線を国道 56 号と第3セクター土佐くろしお鉄道が横断しています。人口約 1万4千人、総面積 188.46 k m²で、そのうち 79.5%は山林が占め経営耕地面積はわずか 2.7%程度です。

伝統・文化

本町は後醍醐天皇の第一皇子尊良親王の遠流の地となり、2年近く過ごされた土地です。また、この親王を追って船出した王妃とのロマンを秘めた小袖貝伝説を始め、悲劇の親王にまつわる史跡・伝説・地名などを多く残し、各地に伝統に培われた社寺や祭事を生んでいます。また明治維新後、後世のため活躍した多くの人材を輩出した由緒ある町として史跡巡りを実施するなど、文化の町として多くの人が訪れます。

平成10年には町出身の私小説作家「上林暁」を顕彰し、作品や資料を展示した文学館・図書館機能を備えた「大方あかつき館」がオープンし、町内外の住民に生涯学習の場として広く利用されています。

文化行事としては「佐賀文化展」、「大方の秋祭り」、「町民大学」また入野松原・海浜をステージとした「砂浜美術館」による各種のイベントがあります。郷土行事としては、鹿島大祭・三方山・火鎮祭・農業祭、各部落単位の神社祭をはじめ、盆おどり等が行われています。

産業・経済

農業と漁業の一次産業を主体とした町ですが、第三次産業従事者数も増えています。気候は南国特有の温暖多雨で年間平均気温 16～17 度と農業には比較的恵まれており、施設園芸（キュウリ・ミョウガ・ニラ・イチゴ・メロン等）、花卉（シュコンカスミソウ・テッポウユリ等）、菌茸類（ブナシメジ・エリンギ）を中心に、水稻・葉タバコ・砂地を利用したのラッキョウ栽培を行っています。ほかに施設栽培の水晶文旦や露地による土佐文旦・ポンカンも特産品といえます。特に佐賀熊の浦のみかんは有名です。

また町内には漁港が7港あり、漁業も盛んで近海カツオの一本釣りは町の看板とも言えます。しかし近年は漁獲不振で漁業全般が厳しい状況となっています。それを補う形でカツオのタタキ作りやホエールウォッチングなど体験型の観光漁業にも取り組んでいます。

その他特産品として天日塩の製品化に成功し、現在は体験の受け入れも行っています。大方精糖生産組合では、黒砂糖の一釜オーナーを募るなどのほか、天日塩とのコラボレーションを図り「あまから協議会」を立ち上げるなど、新たな取り組みが期待されます。

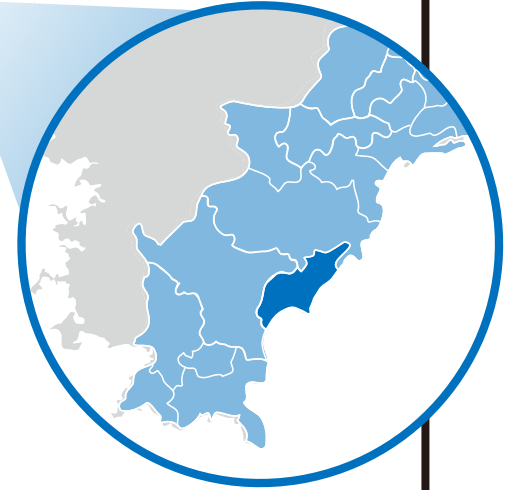
観光・スポーツ

本町は県営事業である土佐西南大規模公園の整備が図られ、スポーツゾーンでは体育館・サッカー場・テニスコート・グランドゴルフ等、同じく土佐西南大規模公園東グラウンド及び佐賀総合支所グラウンドにおいてサッカー・野球などの活動が活発に行われています。町中央部の海岸線には佐賀公園が広がり、くろしお鉄道の佐賀公園駅が新たに開業し、雄大で美しい太平洋を望める憩いのスポットになっており、毎年7月には「いごっそうアクアスロンEKIDEN大会」も開催されます。

町西部の海岸線はほとんどが砂浜で形成されており、その中心部には国有林・町有林合わせて 90haに及ぶ県立自然公園入野松原があります。砂浜には年間を通してサーファーが訪れ太平洋の波を楽しみ、また 4km の砂浜を利用して 1986 年から毎年5月3日には「大方シーサイドはだしマラソン全国大会」を開催し、毎年応援者も含め約 1,000 人以上の参加者を数えます。

「私たちの町には美術館がありません。美しい砂浜が美術館です。」をコンセプトに 1989 年から始まった「砂浜美術館」では、「漂流物展」「T シャツアート展」「潮風のキルト展」等ユニークな催しを全国に向け発信しています。

また、同じく 1989 年から始まったホエールウォッチングは全国に知られ、1994 年には世界で初めての「国際ホエールウォッチング会議」が開催され、1995 年には 18,494 人が訪れています。その後ホエールウォッチングの観光客は徐々に減少し、2007 年には 2,551 人となっていますが、黒潮一番館のカツオのタタキ作り体験や塩作り体験は、関東・関西の修学旅行生の入り込み客を中心に増え続け、年間 3,000 人を突破し、今後もさらに増えることが予想されています。



鹿島神社大祭



天日塩



施設園芸



いごっそうアクアスロンEKIDEN 大会



海岸

- 1 塩屋の浜
- 2 浮津海水浴場(キャンプ場)
- 3 入野海岸(キャンプ場)
- 4 入野海水浴場

史跡

- 1 鹿島神社
- 2 賀茂八幡宮
- 3 上林暁文学碑
- 4 田の口古墳
- 5 千代の碑
- 6 王無の浜
- 7 有井庄司の墓
- 8 朝鮮国女の墓

観光

- 1 鹿島ヶ浦
- 2 観光釣りイカダ(鈴・上川口・田野浦)
- 3 轟の滝
- 4 入野松原
- 5 らっきょうの花見
- 6 ホエールウォッチング
- 7 西南大規模公園(佐賀地区)
- 8 西南大規模公園(大方地区)
- 9 井ノ岬温泉
- 10 ニュー佐賀温泉
- 11 土佐ユートピアカントリークラブ



GUIDE MAP

黒潮町ガイドマップ



道の駅ビオス大方



塩屋の浜



轟の滝



鹿島ヶ浦

佐賀町

町制を敷く
佐賀・伊与喜・拳ノ川各小学校校舎落成
町立青年学校発足（伊与喜）
南海大地震による被害甚大
町立青年学校廃校
鈴小学校校舎落成／佐賀中学校 3 教室落成（野添）
幡東農業相談所開設／佐賀港国費支弁港に指定

佐賀町直営佐賀診療所落成／佐賀町公民館創設
直営佐賀診療所診療開始／佐賀町役場庁舎改築
佐賀町役場荷稲支所業務開始
町営住宅新築落成（馬地 6 棟）
佐賀中学校新築（堂免）／佐賀町役場荷稲支所廃止／伊与喜中学校新築落成
佐賀診療所病棟新設／町議会議員 22 名を 16 名に減
佐賀町財政再建団体となる
パラグアイ国へ 3 家族移住／大方町白浜地区、佐賀町へ編入／水稻早期栽培はじまる
第 7 明神丸伊豆七島付近で遭難
佐賀橋完成／国鉄窪川・中村線同時着工

チリ津波襲来／川奥ループトンネル開通
佐賀町商工会発足／地域団体加入電話新設
鹿島灯台新設／隣保館落成／塵芥焼却場建築（塩屋の浜）
「熊の浦みかん」評判となる
拳ノ川・伊与喜・佐賀農協合併／国鉄中村線が佐賀まで開通／鈴出張診療所新設
スガルに電灯がつく／佐賀巡査部長派出所新設
県営開拓パイロット事業開始／佐賀漁港改修荷揚場工事等
スガル・成又へ電話開通

豚コレラ各所に発生／佐賀・伊与喜・拳ノ川三中学校統合決定
NHK 佐賀中継局新設／佐賀漁港航路砂防堤灯台竣工
町役場旧佐賀中学校に移転／佐賀中学校寄宿舎鹿島寮設置／伊与喜橋完成
佐賀中学校、体育館、給食センター落成
給食センター業務開始
佐賀診療所西村省三医師による診療開始／佐賀漁港泊地浚渫工事着手

鈴小学校、母子センター完成／佐賀町章制定／市野々川橋完成
台風 10 号佐賀町上陸／国鉄中村線、佐賀中村間開通
国道 56 号「片坂新道」開通／同対大型作業所操業開始（縫製）
幡東衛生センター落成／馬地橋完成／佐賀診療所新築落成
佐賀役場庁舎新築落成／佐賀小学校仮校舎へ移転／伊与喜小学校創立百年祭
土佐西南大規模公園用地交渉会議／幡多中央消防組合発足／同対改良住宅落成（20 戸）
佐賀小学校校舎落成／佐賀小学校創立百周年記念式典
拳ノ川小学校創立百周年記念式典／拳ノ川へ縫製工場操業開始
幡多中央消防幡東分署完成／原発設置反対漁民デモ／まや保育園落成
漁協事務所落成

鈴保育園落成／佐賀小学校体育館落成／町内電話自動化開通
伊与喜小学校プール完成／土佐西南大規模公園東地区除外決定
鈴へき地集会所落成／佐賀小学校プール完成／同対改良住宅落成／ニラのハウス栽培始まる
鈴地区、郷浦合併／拳ノ川診療所新築落成／基幹集落センター落成
横浜保育所落成／シメジ初出荷
高南観光スクールバス乗入れ／町民館新築落成

鈴漁港改修始まる／第 1 回老人芸能大会

大方町

生活物資配給始まる
白田川村森林組合発足
七郷・入野・田ノ口の三村合併・町制実施
南海大地震襲来
農地改革着手／警防団に変わり消防団発足／上川口港運輸省指定湾となる
大方町公民館設置／白田川・大方東部・大方中央・大方南部・西大方各農業協同組合創立
中村高等学校大方分校設置／伊田・上川口・浮津・入野・田野浦各漁業協同組合設立

町立中央保育園設置・宮川竹馬頌徳碑建立
東部・早咲・浜松・田野浦各保育園設置／上川口港地方避難港となる
有井庄司墓高知県文化財指定／上川口・上田の口・湊川各保育園設置／大方町・白田川村に各教育委員会発足
田野浦漁港県管理港に編入
へきち教育実施
伊田保育園設置／大方町・白田川村合併推進協議会設置
大方町と白田川村が合併し新生「大方町」がスタート／入野松原県立公園に指定／大方町に初の消防車
蛭川小学校、上川口保育園落成／大方町森林組合が発足／大方町社会福祉協議会発足／中村高校大方分校校舎落成
大方中学校 70 周年記念式典挙行／大方町より南米移民開始
宮川奨学資金制度創設

大方球場第 1 期工事完成／ラッキョウ栽培開始
大方町民館落成／大方町史完成
新逢坂トンネル開通／優良町として全国町村会表彰／第 1 回「大方の秋祭り」開催
高知地方法務局大方出張所が中村支局へ統合される
入野松原に防潮堤砂丘（500m）完成／上川口・浮瀬両漁協合併
宮川竹馬没／キュウリビニールハウス栽培開始
台風 20 号襲来で災害救助法適用（住宅全壊 5 棟、半壊 80 棟など）
県立大方商業高校独立開校／中央・白田川・東部・西大方農協合併、大方町農業協同組合発足
町章制定／南部農協が花卉栽培導入
大方町合併 10 周年記念式典挙行／大方町有線放送開始
北郷小学校校舎改築完成／仲分川地区簡易水道完成
社会福祉法人大方学園開設／大方町同和教育研究協議会結成／有線放送組合電話事業開始
第 1 回「フェスティバル大方」開催
大型共同作業所（竹細工・縫製工場）完成／上林暁文学碑入野松原に建立
白田川支所落成／同和对策事業特別措置法制定／入野漁港改良工事着手

幡東し尿処理組合設立／台風 10 号襲来で災害救助法適用（住宅全壊 9 棟、半壊 44 棟など）
役場庁舎移転新築落成／国鉄中村線全線開通
幡多中央塵芥処理組合設立／大方中学校校舎落成で統合授業
土佐西南大規模公園計画認可、事業着手／大方町農協集出荷センター落成

大方町土地開発公社設立／錦野団地第 1 期造成工事完成／町内保育所を公立化
幡多中央消防組合幡東分署開設／大方中学校新校舎竣工／婦人泊まり合い研修会開始

大方町総合社会福祉センター落成／「広報おがた」スタート／中央保育所移転新築落成
三浦小学校校舎移転新築落成／幡多中央消防組合幡東分署庁舎落成／都市下水路工事着手
同対改良住宅落成・住宅地区改良事業着手
「部落完全解放の町」宣言／三浦小学校体育館落成／早咲保育所、浜松保育所移転新築落成
入野児童公園開園
入野小学校校舎改築落成
「県立幡多青少年の家」開設／上水道給水開始／入野漁港供用開始

入野小学校体育館落成／錦野団地第 2 期造成工事完成／大方町青少年補導育成センター設置
蛭瀬川流域集中豪雨／田ノ口小学校校舎改築落成
南部保育所移転新築落成／中央幼稚園開園（落成）／入野漁港荷捌所・給油施設落成／町民館移転新築落成

1940

1950

1960

1970

1940 年（昭和 15）
1942 年（昭和 17）
1943 年（昭和 18）
1946 年（昭和 21）
1947 年（昭和 22）
1948 年（昭和 23）
1949 年（昭和 24）

1950 年（昭和 25）
1951 年（昭和 26）
1952 年（昭和 27）
1953 年（昭和 28）
1954 年（昭和 29）
1955 年（昭和 30）
1956 年（昭和 31）
1957 年（昭和 32）
1958 年（昭和 33）
1959 年（昭和 34）

1960 年（昭和 35）
1961 年（昭和 36）
1962 年（昭和 37）

1963 年（昭和 38）
1964 年（昭和 39）

1965 年（昭和 40）

1966 年（昭和 41）

1967 年（昭和 42）

1968 年（昭和 43）
1969 年（昭和 44）

1970 年（昭和 45）

1971 年（昭和 46）
1972 年（昭和 47）

1973 年（昭和 48）

1974 年（昭和 49）

1975 年（昭和 50）

1976 年（昭和 51）
1977 年（昭和 52）

1978 年（昭和 53）

1979 年（昭和 54）

大方町

授産施設大方生華園開設／加持・入野両小学校統合／徳広蔵城（上林曉）没／大方南部農協花卉団地の造成完了	
上川口保育所移転新築落成／上川口海洋少年団結成／特別養護老人ホーム「シーサイドホーム」設立	
東部保育所改築落成／伊田小学校校舎改築落成／幡東し尿処理場移転新築落成	
大方町有線放送組合解散／王無団地造成工事完成／県営園場整備事業開始	
老人保健制度発足／上田の口保育所移転新築落成／伊田小学校・蛭川小学校体育館落成	
大方町商工会移転新築落成／中央地区土地改良区設立／サイクリングロード完成	
大方町「ふるさと総合センター」落成	
上川口小学校体育館落成／緑野団地造成工事完成／加持小学校閉校式	
上川口駐在所完成／蛭瀬川橋完成／高知西南国営農地開発事業着手／大方町農協第1回「農業祭」開催	
大方町合併30周年記念行事挙行（記念式典・NHKのど自慢）	
第1回「大方シーサイドはだしマラソン全国大会」開催	
土佐西南大規模公園キャンプ場公開／馬荷小学校移転新築落成	
「全国花卉生産者大会」開催／JR中村線廃止・土佐くろしお鉄道開業	
土佐入野駅舎落成／田野浦本田地区に国営農地開発事業開始	
南郷小学校新築落成／松原再生事業開始、松原保存会結成／「砂浜美術館」開館	
ホエールウォッチング開始／第3回「全国松原サミット」開催	

佐賀町

伊与喜小学校校舎、体育館落成／拳ノ川保育所落成／町制40周年記念式典	
拳ノ川小学校校舎、体育館落成／議会窪川原発設置反対決議／プロイラー生産初出荷	
伊与喜保育所落成／総合センター落成／漁協製氷貯水施設落成	
幡東し尿処理施設落成（灘）／納骨堂他諸施設落成	
同対縫製大型作業所工場始業／国道56号、「熊井バイパス」起工式	
老人憩いの家落成／熊ノ浦海岸道路竣工式	
女川原子力発電所視察／熊ノ浦へ通学バス乗り入れ開始	
漁民研修センター落成／港佐賀橋完成	
国道56号、「熊井バイパス」完成／総合保健センター落成	
まちづくりコンサート実施（ゲスト井上陽水）	
土佐西南大規模公園西地区開園／JR中村線廃止／土佐くろしお鉄道開業	
デイサービスセンター「鹿島ヶ浦」落成／台風17号豪雨	

南郷小学校落成／湊川小学校閉校／台風襲来（14号・19号・20号）被害総額5億6000万円	
湊川ふれあいセンター落成／大方南部農協落成	
上川口小学校改築落成／「町の玉手箱」完成／灘の海岸にトド話題となる	
幡多中央塵芥（ゴミ処理施設）完成／土佐西南大規模公園田の口地区にテニスコートオープン	
「母の塔」落成／福祉の店「ひまわり」オープン／六地藏墓地移転事業完成	
新逢坂トンネル開通／児童館落成／伊田保育所移転新築落成	
高知大方農協・大方南部農協合併し高知大方農協発足	
土佐西南大規模公園体育館完成／JA「にこにこ市」オープン／大方町史改訂版完成	
入野漁村センター落成／「国際ホエールウォッチング会議」開催	
出口に「幡多中央斎場」完成／第1回「潮風のキルト展」開催	
大方町遊漁船主会事務所オープン	
馬荷・橋川地区上水道給水開始／「大方あかつき館」着工／大型共同作業場落成	
国営農地「ヤモウヂ団地」完成／第8回「日本ウミガメ会議」開催／灘漁港完成	
蛭川バイパス開通／中央幼稚園閉園／幡東衛生センター落成／「大方あかつき館」オープン	
第12回「全国松原サミット」開催（松の記念植樹）	
蛭川小学校閉校／第1回大方町「観光・おさかな祭り」開催	

記念行事「海へ来な祭」開催／町制50周年記念写真集「いとしの町ーとさ佐賀ー」発刊	
町制50周年記念式典実施（佐賀小体育館）／佐賀町民憲章制定	
特別養護老人ホーム「かしま荘」運営開始	
伊与喜小学校複式解消、校舎増築落成記念式典／エノキ茸生産施設共用開始	
町内でカワウソのふん発見／保健婦確保へ奨学金制度開始	
第1回「土佐・カツオ・クロスカントリー大会」実施（佐賀新港）	
鈴漁協荷捌所落成式／匠心橋完成（拳ノ川）／大型水産加工場完成	
町道擁壁に巨大なカワウソのレリーフが登場／フィリピンより漁業研修生を受け入れ	
文化活動拠点施設「ヘンゼの森」が鈴に完成／土佐くろしお鉄道「佐賀公園駅」オープン	
一本釣り近海漁船としては日本最大規模の「第63佐賀明神丸」が進水	
佐賀漁港が「第三種漁港」昇格／大方町と共催で「国際ホエールウォッチング会議」開催	
戦後初の佐賀町出身県議誕生	
町漁協所属カツオ一本釣り漁船が年間水揚げ高4億3800万円で日本一に	
アルミ合金製では日本最大の「第83佐賀明神丸」が進水	
幡多地域10市町村議会が高速道路整備を目指す期成同盟会を発足	
高齢者保健福祉支援センター起工（拳ノ川）／ミクロネシア公使が塩作りグループを視察	
国保保健福祉支援センター「こぶし」開所（拳ノ川）／伊与木川調査委員会設置	
佐賀町農協が特産シメジ製品化／幡東消防署に水難救助隊発足／魚醤製造施設起工	
魚醤製造工場が黒潮一番地に完成／佐賀発電所水利権更新を控え地下水調査スタート	
集中豪雨で各地に被害多発／町観光協会発足	
家地川ダム環境調査	

宅老所「よりあい」開設／介護保健制度はじまる	
第15回「大方シーサイドはだしマラソン全国大会」記念講演会	
国道56号改良工事測量開始／町内4漁協が合併、大方町漁業協同組合が発足	
丸山地区上水道給水開始	
砂浜美術館が「財団法人日本ファッション協会」生活文化賞受賞	
「砂浜ふれあい園路」開通式典／「よさこい高知国体」開催／上林曉生誕100周年記念事業実施	
土佐くろしお鉄道「海の王迎駅」開業／「大方スケートパーク」オープン	
上田の口バイパス開通／中村市・大方町・佐賀町・西土佐村合併協議会発足	
北郷小学校休校／上川口港整備事業完了（式典）／大方くじら保育園落成	
入野海水浴場オープン／中村市・大方町・佐賀町・西土佐村合併協議会廃止	
大方町・佐賀町合併協議会設立／白田川支所閉所／上川口郵便局で「証明書交付事務」開始	
新生・大方高等学校開校／「ピオスおおがた」オープン	
大方町閉町式／「黒潮町」誕生／馬荷小学校休校	
黒潮町職員地域担当制開始／であいの里蛭川オープン／後期高齢者医療制度開始／第1回黒潮町成人式／馬荷小学校で若者自立塾がオープン	
第1次黒潮町総合振興計画策定／第20回記念Tシャツアート展開催／高知県漁業協同組合が発足／拳ノ川診療所民営化	

熊井地区に町林業総合センター落成／町制施行60周年記念式典	
家地川ダム水利権更新／黒潮カツオ体験隊が修学旅行生らを受け入れ	
県商品計画機構が撤退した魚醤事業を新会社が再スタート	
ニュージーランドの中学生が約1週間滞在、国際交流を深める	
国道56号、「佐賀バイパス」全線開通／天日塩製造施設が熊ノ浦に完成	
魚醤製造・販売会社「びーみ」の総店が大阪にオープン／天日塩製造施設が熊ノ浦に完成	
よさこい高知国体のデモ競技としてデュアスロンを開催	
「なぶら公園」オープン／稲荷の土佐くろしお鉄道中村線で土砂崩れ	
カツオのたたき作りが体験できる「カツオふれあいセンター黒潮一番館」落成	
拳ノ川診療所疋田医師、第11回高新大賞を受賞	
中村市・大方町・西土佐村との合併是非を問う住民投票は反対多数で白紙に	
高レベル放射性廃棄物最終処分施設誘致請願を不採択	
大方・佐賀法定合併協議会発足／「黒潮町」へ合併協定調印	
鈴小学校休校式／黒潮カツオ体験隊、農林水産大臣賞を受賞	
佐賀町閉町記念式典／「黒潮町」誕生	